

すぎとまちこんじやくしゅうじろく 文様の象徴性と物語性 ジョウモン インター・ア・ワシヨン

～温古知新
杉戸の歴史～
ぼれ話～

第10回

前回、縄文土器の文様について、「物語」のようなものだとお伝えしました。さらに掘り下げてみると、この「物語」は「象徴（シンボル）」という言葉に置き換えることができるかもしれません。では、象徴とは何でしようか？縄文土器の文様は、文字を持たなかつた縄文人が、自分たちを取り巻く世界観を記号化し、視覚的に表現したものと考えられます。具体的には、この文様は次のような自然のはたらきを象徴しているのではないでしょうか。

地

山、原、土、砂など、大地のささやき。

水

雨、川、湖、海などのうねりやせせらぎ。

風

吐息、大気、微風、台風などの動きやざわめき。

火

太陽、焚き火による光と影のゆらめき。

生命

森、樹木、花、草、動物が発する生命のかがやき。

これらは、縄文人にとって単なる物理的な現象ではなく、超自然的な力として敬意を払っていた可能性があります。文字に代わる雄弁な表現として、土器の文様は彼らの物語を奏で、これを視覚的に共有する重要な手段だったはずです。さらに、縄文時代は、精霊や靈魂という概念が明確に認識される以前の時代と考えられます。しかし、彼らがあらゆるものに内在する「超自然的な力」を感じ取り、それに対する畏敬を抱いていたことは明らかでしょう。この自然環境と人間の相互作用は、やがて縄文社会の規範や価値観の形成にも大きく影響したと考えられます。

わが家のアイドル

掲載された方には特製カードをプレゼント！
皆さんのステキな1枚をお待ちしています！

詳しくは
こちら▶

QRコードから
簡単応募！▶



UD FONT
by MORISAWA

読みやすい書体であるユニバーサルデザイン
(UDフォント)を使用しています。



杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎめー



広報スマホ版
マチロ



杉戸町
公式LINE



杉戸町
公式X